

学習計画を重視する予備登録方法の提案

文教大学情報学部経営情報学科
A1P21501 郭 恵玲

1章 はじめに

大学には、自分が学びたい科目を事前に登録するという作業があります。これは一般に履修登録と呼ばれています。この履修登録は必ずしも自由ではなく、制限が行われることがあります。この履修に対する制限とは、過大クラスを防止することが目的になることが多いようです。この履修制限の方法にはさまざまなものがありますが、文教大学ではこの制限を行う手段として予備登録という制度を取り入れています[1]、[5]、[6]、[7]、[8]、[9]、[12]。予備登録とは制限をかけなければならない科目を事前に指定し、履修登録の前に履修希望人数を把握し、その結果履修可能人数を超過したときは、抽選により履修可能者を決定する制度です。予備登録と履修登録には大きな違いは履修登録では学生は期間中に履修科目を登録しさえすれば必ず履修することができますが、予備登録では対象科目を登録しても許可がなければ履修ができないというものです[2]、[6]、[7]、[8]、[9]、[10]。

この予備登録制度に対しは多くの学生が不満を持っているようです。文教大学平成16年前期学友会アンケートによると、予備登録制度についての質問に対して3251名の回答者のうち、80%以上が「改善してほしい」と答えています[3]。また「面倒くさい」、「会場が混雑」、「無駄」などの不満の声を聞くこともあります。確かに、予備登録期間に資料を取りに行ったり、用紙を提出したりするために教室と教務課の間を往復することは面倒な手続きだと思えます。しかしながら学生が予備登録に対して本当の不満は「面倒くさい」、「会場が混雑」、「無駄」のような問題なのか真剣に考えてみたいと思いました。ところで、同じ手続きの履修登録を見てみると、学校への往復はもちろん、教務課と教室の間の頻繁に移動が発生します。予備登録とほぼ同じな手続きなので、履修登録でも上記と同じような不満が生じるはずで、ところが同様の「面倒」で混雑している状況なのにもかかわらず、履修登録に対してはこういったような不満は上がっていないようです。そこで、予備登録制度に対して、本当に困っている学生の不満は、「面倒くさい」、「混雑」、「無駄」のようなものなのかという疑問を感じました。そこで、学生の不満を的確に解消するため、予備登録制度を改善できないかと考えたのがこの研究をすることにしたきっかけです。

私も毎学期の予備登録をするときの様々な大騒動に、違和感を持ってきました。また、毎回の予備登録では、必ず履修できない人が出ます。更に、前回の予備登録で履修できなかった学生が、同一の科目にもかかわらず連続して履修できないというケースもあります。この種のケースにおける問題は、学生本人にはなぜ落選したのかが運が悪いという理由以外に全く分からないということです。学生にとっては運が悪いからその科目を履修できないというのも納得のいかない話です。抽選も先着順も「運が悪かったのだからしかたがない」、「遅かったのだから仕方がない」という締め方になります。しかし、それでは運が悪かったという理由で授業が取れないという結果となり、勉強の意欲が反映された結果には

なっていないと考えられます。

このことを学生側から見ると、履修制限と予備登録制度の関係が明確に感じられませんし、特に先述の通りなぜ自分が抽選から外れたかという理由が「運」としか示されていないことが学生の不満につながっているのではないかと感じます。つまり、勉強の意欲が反映されていない予備登録の結果による学生の学習計画の乱れが、当制度に対する不満を高める主たる原因だと推測します。そこで、学生が予備登録制度に対して持っている不満の声の原因を突き止め、学生の意欲が反映される予備登録制度の代替案を提案することによって、学生の不満を解消したいと考えました。

本研究ではまず現行の予備登録制度を検討することによって、問題点を抽出・分析します。次に、不満の主たる原因となっている問題点から、最も影響を受けている学生をターゲットとして選択します。最後に、その問題点を解消するための新たな予備登録制度を提案します。また、提案する新たな予備登録制度は、将来的にウェブ履修登録システムなどを導入する場合など、履修登録に関する制度の変更などが生じる場合でも、よりよい制度作りの基礎となるものを目指します。

本論文の具体的な構成は、2章でなぜ履修登録と予備登録が必要なのかについてそれぞれの仕組、流れ、相互関係を説明します。3章では、現行の予備登録制度問題点をいくつか取り挙げ、解決方法及びその困難性を検証します。4章では、検証した結果に基づいて「学習計画を重視する予備登録方法」という効果的な問題解決案を導きます。5章では、学習計画を重視する予備登録制度の具体的な提案をし、影響の予測を行います。6章では、本研究のまとめを行います。また、7章では、本研究で予備登録制度の問題解決に関して、関与していない分野の問題を今後の課題として取り挙げます。

2章 履修登録と予備登録

ここでは文教大学をモデルとし履修登録制度と予備登録制度の仕組みを説明します。

2-1 大学における学習

大学における学習の特徴は、大学側が準備したカリキュラムの中で、自分で履修計画を立て、登録手続きを行ったうえで授業を受け、卒業に必要な単位を満たしていくところにあります[1]、[5]、[7]。

卒業するためには、4年以上在学し、所属学部のカリキュラム（教育課程）にしたがって開講される授業科目を系統的に履修し、定められた卒業所要単位を修得しなければなりません。開講授業科目には科目の構成とその履修年次が示されているので、学生は、必修科目と選択科目の区分や、各区分に定められた卒業・進級所要単位数を確認の上、自らの責任において無理のない履修計画を立てから履修登録を行うのが大学における学習のポイントです[1]、[9]、[10]、[11]、[12]、[13]、[14]、[15]。

次は、履修登録と予備登録の仕組みについて詳しく説明します。

2-2 履修登録

履修登録とは正式には、「その Semester に履修しようとする科目の授業を受ける権利を得るための手続のこと」で、学生にとって学習計画における最も大切な手続であるといえます[2]。もし履修登録をしていなければ、その科目の授業で利用される受講者名簿や成績

評価を記載する採点簿に名前が載りません。仮に、間違えた登録をしたために未登録となっている科目の授業に出席したとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。更に、一度履修登録した科目の変更や取消しは認められません。よって、慎重に履修計画を立てた上で、十分な注意のもとに履修登録を行なう必要があります。学生が授業を受けるために必要な手続きは次の図 1. のようになります[2]。

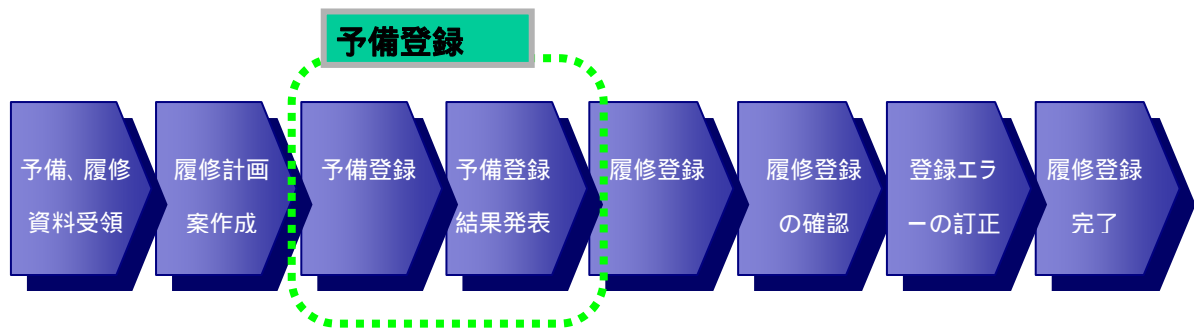


図 1. 履修登録の流れ

この流れはまず学生が履修登録に必要な資料、登録用紙などを受け取ります。『履修のてびき』、『授業時間割表』を参考し、履修計画案を作成します。その中に、予備登録対象科目がある場合は予備登録の申請をします。申請した科目について、予備登録結果発表の段階に履修の可否を確認します。その後、履修したいと科目について、履修登録を行います。登録確認の段階で、登録した科目について、エラーがあるかどうかをチェックします。エラーがある場合には、登録の修正を行い、修正後の確認をします。すべて異常がなかった場合に履修登録完了となります[2]。

2-3 履修登録を補助する予備登録制度

文教大学は受講人数を制限する科目については、予備登録を行います。予備登録とは、コンピュータ室などの特別な教室を使用する場合や授業効果をあげるため人数制限を行う科目、あるいは特例として履修を制限されている科目についての許可を受ける手続きのことです[2]。予備登録対象科目については、決められた手続きを行い、許可を受けなければ履修することができません。また、許可された科目は必ず履修しなければなりません。予備登録の手続きは図 1 にあるように、予備登録対象科目を履修する場合、履修登録の前に予備登録を行わなければなりません[1]。

次の章では、この予備登録の現状を説明し、問題点を指摘したいと思います。

3章 予備登録の現状と問題点

ここでは、予備登録制度の現状を分析し、具体的な問題点を抽出します。そして、その解決方法について検討します。

3-1 現状と問題点

現在の予備登録は学期の始まる前に 3 日間かけて行われています。その前に、資料を受領するため、学校に行かなければなりません[1]、[2]。その後、記入した用紙を指定された

教室に提出します。学部、学科、学年（2年～4年）はすべて同じ教室なので、会場が混みます。また、提出した用紙の記入ミスや本人確認するため、一部学生スタッフを雇っています。予備登録用紙を提出してから2日後の午前中に予備登録結果発表が行われています[2]。予備登録対象科目に関しては履修許可がおりた場合にしか履修できません。結果として落選した学生が出ます。落選した人はすでに計画していた履修計画をそれから調整しなければなりません。希望する科目が必ず履修できるとは限らないのが現在の予備登録制度においての問題です。さらに、複数回にわたり落とされる人もいます。自由に学習するという大学学習の特徴に対して、ふさわしくない現象です。以上の現状に基づいて、予備登録制度の問題を整理していきたいと思います。

まず、予備登録制度実施に関する問題として、以下の（1）～（3）が挙げられます。

- （1） 予備登録会場の混雑
- （2） 予備登録期間が短い
- （3） 予備登録の修正期間が短い

多くの学生は予備登録期間中の混雑している状況に不満を持っています。学生課の前、厚生棟の中で並んでいる長い列が非効率だと感じている学生は多いと思われます。それに加えて、3日間の登録期間と半日の修正期間は、学生にとって短期間であるため不便に感じています。

次に教務課に関する問題として、次の（4）が挙げられます。

- （4） 予備登録期間の経費（アルバイト料）

教務課では、予備登録期間に登録マークシートの回収係りに払うアルバイト料などで、多くの経費がかかると思われます。

そして、「学習する」というのが学生の本業であると考えれば、以下は予備登録制度における深刻な問題だと考えられます。

- （5） 予備登録の不都合な結果による学生の学習意欲へのダメージ
- （6） 計画通りに履修することの難しさ
- （7） 予備登録の選抜方法の不適切さ

先述の通り、予備登録制度には選考基準が不適切という問題があり、「抽選という運で決めてよいのか？」という点にも学生は不満に感じています。更に、連続する落選は学生が計画通りに履修することへの大きな障害にもなります。

次は、これらの諸問題の解決方法について、具体的に考察します。

3-2 解決方法及びその困難性

前節で、予備登録の問題点を挙げました。本節では、解決方法について検討してみます。前節で（1）～（3）に分類した予備登録の実施上の問題の解決はさほど難しくありません。多くの大学はウェブ登録システムを導入することによってこの問題の解決を図っているそうです[5]、[9]、[10]、[11]。例えば、慶応大学藤沢キャンパスではウェブ登録システムを使って、学生の履修に対する不満を緩和し、そして学務システムの効率をアップすることを目指しているそうです[5]。

ところが、実際に慶応大学に所属している友人に状況を尋ねると、大きな効果が得られ

ていないことが分かりました。学生の中では、ウェブ登録に関する資料をもらったり、先生の説明をきいたり、そうしているうちに混乱が起きているそうです。さらにその友人に聞いたところ、学生の不満の原因はやはり履修制限というものであり、ウェブ登録システムを利用しても学生が授業を思う通りに履修できないという点にある事が分かりました。つまり、ウェブ登録制度でも「自由に履修できない」という問題は当然ながら解決できないのです。また、慶応大学では学生が多いため、履修制限にかかる学生も多いそうです。実際に、もともと定員が60人の教室が指定されていた授業で、定員380人の大教室に変更となりました。それでも学生があふれてしまい、結局抽選で400人まで絞られることになったそうです。また、400人に絞られていましたが当初60人の予定であった学生が、400人になってしまったため、新たな問題が発生します。このときの授業は特に、「企画立案」を趣旨とする授業であったため、人数の変化によって授業内容（授業態勢）を変更せざるを得ません。

このように、現状のすべての問題点を解決するため、制度自体を変えると（ここでは履修制限60人という制度を400人に変更したことを指す）必ず新たな問題を引き起します。更に、新たに発生する問題から生まれる影響は予測することが難しいため、制度自体を変えるという方法は場当たりの処置をなってしまう危惧があります。

そこで、各問題を同列に置いて、全てを解決しようとするのが新たな問題を生み出すリスクを避けるために、ある一定の基準を用いることで各問題に重みを付加し、重要性の高い問題を解決することで、予定の効果を得る方が得策ではないかとここで考えました。

先ほど列挙した問題点の中で（1）予備登録会場の混雑、（2）予備登録期間が短い、（3）予備登録の修正期間が短い、というのは制度運用上の規制を修正することによって解決できる問題であると思います。

また、（4）予備登録期間の無駄な経費、（5）教務課の二度手間、は直接的には学生と関係がないので、学生の不満を起す原因ではないと考えられます。

それに対して、（6）予備登録の不都合な結果による学生のストレス、（7）計画通りに履修することの難しさ、（8）予備登録の選抜方法の不明確さ、というのは学生の本業である学習と大学教育方針への大きな障害となるので、予備登録において一番解決しなければならない主問題であると考えます。次の章では、（6）～（8）の問題から大きな影響を受ける学生とはどのような学生かについて、考察します。

4章 学習計画を重視する予備登録の研究の導出

ここでは、前章で説明した予備登録の問題の中で計画通りに履修することの難しさに関する部分を考えていきます。次節からは、前章の主問題（6）（7）（8）より、「自分の計画通りに履修できない」という深刻な問題を感じている学生が、予備登録制度からどのような影響を大きく受けているのかを、モデルを用いて検証していきます。

4-1 予備登録による影響のモデル化

まず、現行予備登録においてどのように影響を受けているのかを検証します。

はじめに、予備登録におけるもっとも影響を受けている者を明確するために、学生を「学習計画をもっている」、「学習計画をもっていない」の2つのタイプに抽象化し、分析を行っていきます。

この2つのタイプにおいて、予備登録がどんな影響を与えるのかを検証するため、下の図2を用いて説明します。学生Aは学習目標を持ち、その目標を達成されていくために学習計画を持ちます。その一方で学生Bは計画が持っていない、自由に履修をします。

まず、学生Aは自分の持っている計画の通りに履修しようとしています。学生Aが受けている予備登録の影響とは、予備登録で落とされた場合に自分の計画がうまく実行できない、もしくは中止するということになります。一方学生Bは計画を持たずに履修を行っています。計画がないので、予備登録に落とされた場合は登録する科目を変えれば済むということになります。まったく影響を受けません。

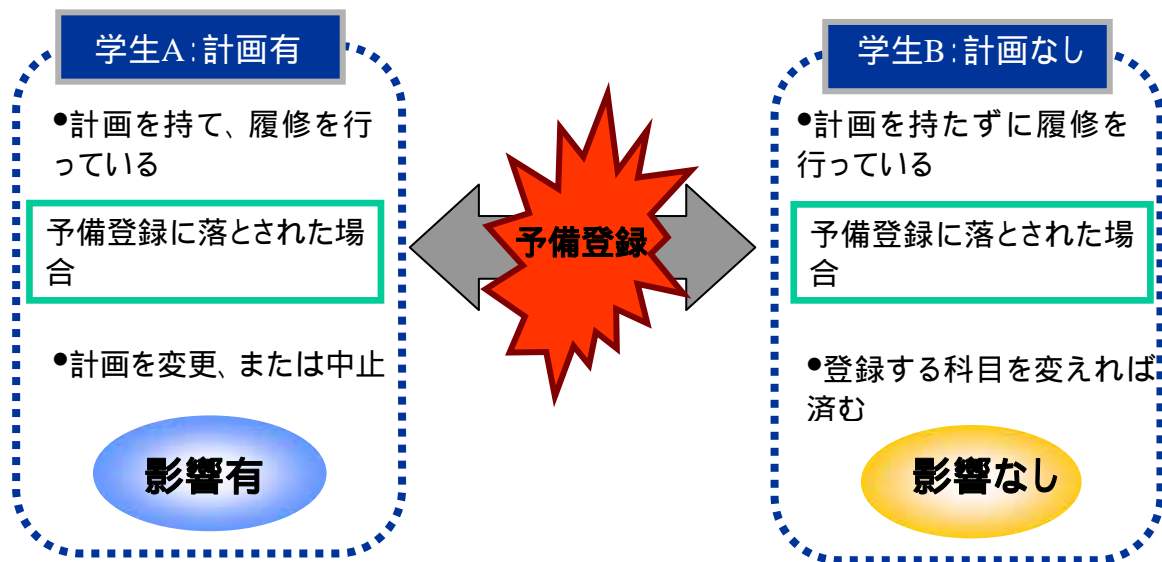


図2.学生のタイプ分け

ここでのモデルを仮定すると、計画を持っている人は予備登録に左右されていることが分かります。

以上、図2の学生のタイプ分けの検証から、遡減していく予備登録可能期間の間に、現行の予備登録制度から受けている影響が一番大きいのは、計画を持っている学生と考えられます。そこで、計画を持っている学生が受けている影響を考慮し、選考基準が明確な予備登録の方法として、学習計画を重視する予備登録の方法を考えていきたいと思えます。

次は、学習計画を重視する予備登録の観点について、学習計画の重要性及び効果的な解決案の導出法を説明します。

4-2 効果的な問題解決案導出法

大学における学習は、卒業所要単位を修得し、学位を得て、卒業することで完了します。しかし、明確な学習目的を持たず、ただ決められた単位数を数字の上で揃えるだけのよう履修計画では、たとえ4年間で卒業できたとしても、学士としてふさわしい能力と見識を持つことは困難です[16]。

カリキュラムに設けられた授業科目は、特に選択科目においてはさまざまな領域に及ぶ

ため、一般的な知識を修得するのか、特定分野についての深い知識を修得するのか、特定の資格の取得を目指すのか等、各自の学習目的に応じて系統的に履修することが重要です。ここから自分の興味、関心に合った科目を選び出して、相互に関連づけしながら学ぶことで、より理解を深めることができます。また、将来に携わっている仕事や進路を順調に進めるために、計画性が必要です[16]。また、学校は能動的な学生をサポートすべきなので、能動的な学生を見分けるために、計画性が重要だと思います。

大学では、学生に自由な学習環境を与えています。大学は学生の特長を重視し、将来に社会でその特長を十分生かせる進路を導くために、努力し続けています。例えば、図 3.は文教大学経営情報学科のカリキュラム構成です。このカリキュラムの紹介では「将来(就きたい業務や業種)のことを考えて履修する科目を選びましょう!」、「勉強は積み重ねです。3、4年で履修したい科目の分野の基礎的な科目は1、2年で履修しましょう!」と学生に呼びかけています[4]。



図 3. 文教大学経営情報学科カリキュラム構成

仮にある学生が何かしらの勉強計画を持っていると仮定するのなら、その学生は 3・4 年での履修科目まで考えて、1・2 年での履修科目を決める事になります。しかし、もし予備登録の段階で落とされてしまうと、この学生が予備登録から受けた影響は小さくありません。なぜなら、1・2 年次での履修科目の変更が、3・4 年次(2・3 年後)の履修科目に影響を及ぼすからです。このような状況を何回も繰り返すと学生の学習意欲にダメージを与え、学習意欲を減衰させることになります。

以上より、学生の不満解消・大学の教育方針を考慮すると、学生の長期的な勉強計画を達成するために、学習計画を重視するという観点は効果的な問題解決案に不可欠であると考えられます。次は、学習計画を重視する予備登録制度が持つべき特徴について提案します。

4-3 学習計画を重視する予備登録

学習計画を重視する予備登録とは、学習計画を持っている学生を対象とし、現行の予備

登録に影響されず思う通りに履修できるような方法をここでは模索していきたいと思いません。

ここで問題となるのは、計画を持っている学生と計画を持っていない学生を判断する基準をどうするかということです。ただ、この問題に対する明確な基準作りは難しいでしょう。そこで、発想を変えて学生が計画を持っているかどうかの判断は学生自身に任せ、自己申告で行う方法を考えました。しかし、単なる自己申告では計画性を本当に持っているかどうかの保障は難しくなります。そこで、「予約制予備登録」という方法を思い付きました。以下では、その新たな予備登録方法を提案として、「予約制予備登録」のアイデアを説明します。

5章 学習計画を重視する予備登録方法の提案

本章では学習計画を重視する予備登録方法として「予約制予備登録」という方法を提案し、現行の予備登録方法と比較し、影響を予測します。

5-1 予約制予備登録方法

「予約制予備登録方法」とは、現行予備登録制度のうえで、計画を持っている学生に対して、計画通りに履修することを可能とする方法です。

まず、予約制予備登録制度の概略について説明します。

各学生は学習計画に基づき予備登録を行います。詳細な計画を立てることにより、次semester以降に履修する予備登録を事前に確定しています。計画を崩すことのないように、次semesterに履修予定の予備登録科目を「予約」します。予約した科目は、該当semesterの予備登録科目の履修状態により、次semesterに優先的に割り当てられます。すなわち、2 semesterに予約した科目は、1 semesterに履修した科目の履修状況により、予約が有効となります。

次は、予約制予備登録制度を導入するにあたり、各学生が必要となるものを説明します。

現在よりも詳細な学習計画を作成する必要があります。自分がどのような科目を履修したいかだけでなく、実際に取得する科目を早めに計画する必要があります。計画の変更はどの時点でも可能ですが、予約制予備登録制度の下の予備登録制度では、安易な計画の変更は、不利な扱いを受ける可能性があります。さらに、それぞれの科目を履修する前に、シラバスなどをよく読み、あとで思い違いが生じないようにしなければなりません。

そして、予約制予備登録制度を導入するにあたり、大学側で対応する必要があるものを挙げました。

・シラバスに前提科目を追記すること

現在学生に配布されるシラバスには、前提となる科目が記載されていないです。ある学生が、オペレーションズ・リサーチを体系的に学びたいという計画を持っているとします。この場合、オペレーションズ・リサーチを履修する際前提となる科目、さらに発展的に学習する際に必要となる科目を指し示す必要があります。また、学科、学部単位で予備登録の科目のみでなく、一般の履修登録を含めたモデルを作成する必要があると考えられます。

これは本来学生が1から学習計画を作成するのが望ましいのですが、大学には多くの科目があり、モデルがない場合には、目の前の科目のみに注意が向き、長期的な計画が作成

されない可能性があるためです。

ただし、各学生はこのモデルを参考にするのみであり、モデルと同一の科目を必ずしも履修する必要はないです。モデルはあくまで履修モデルであり、コースではないためです。

・学習計画の相談の機会を設ける

学生が学習計画を作成する際に、さまざまな疑問が生じることが予想されます。そのために、学校側では相談期間を設ける必要があります。また、各学生も学習計画をよりよいものとするために、教員に相談をするなど、主体的に活動を行う必要があります。

では、実際の制度を説明します。

<実際の制度>

学生は本制度を有効に利用するために、シラバス等を有効に利用し詳細な学習計画を作成します。計画は基本的に卒業時までのものを作成するとしますが、次セメスター以降のものであれば、その長さは問いません。例えば、1セメスターに提出される計画には、最短で2セメスターから最長で8セメスターまでの計画が存在します。

予備登録時には、「予約」を行う予備登録対象科目を教務課指定の方法にて登録します。

はじめて予備登録対象科目を履修する場合には本制度を適用せず、通常の予備登録と同様の予備登録を行います。

「予約」が有効になるかの判断は、履修状況によって判断します。計画を持って学習する学生は必ず計画した科目を履修できると考えるため、成績による優劣はつけません。

学生は学習計画の変更が生じた時点で、新しい計画を教務課に提出できます。その後の手順は始めの予約登録の段階に戻ります。

では、詳しい制度の流れについて説明します。

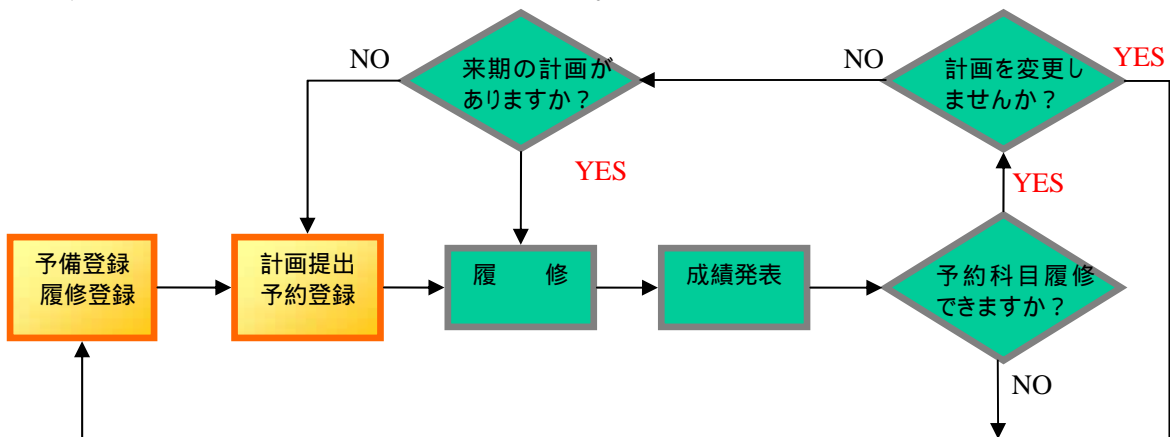


図3.予約制予備登録の流れ

学生はシラバス等を有効に利用し、詳細な学習計画を作成します。計画は基本的に卒業までのものを作成するとしますが、次セメスター以降のものであれば、その長さは問いません。例えば、1セメスターに提出される計画には、最短で2セメスターから最長で8セメスターまでの計画が存在します。

予約予備登録時には、「予約」を行う予備登録対象科目を教務課指定の方法にて登録します。はじめて予備登録対象科目を履修する場合には本制度を適用せず、通常の予備登録を

行います。

予備登録を履修できる場合はその科目を履修し、履修した科目の履修状況によって、予約科目を履修可能かどうかを判断します、履修できない場合は元の段階に戻ります。履修できる場合は計画を変更するかどうかについて判断します。計画を変更の場合は元の段階に戻ります。計画をそのままの場合は来期の計画があるかどうかについて判断します。計画がある場合は科目を履修し、計画を実行します。計画がない場合は、予約登録の段階に戻って計画を提出します。

学生は学習計画の変更が生じた時点で、新しい計画を教務課に提出できます。その後の手順は始めの段階に戻ります。

5-2 従来の予備登録方法との比較

ここで予約制予備登録について、現行予備登録と比較したいと思います。

● 従来の予備登録制度との違い

現在の予備登録制度は、過大クラス防止等のためのみに作られ、各学生のニーズに適合したものではありません。そのため、各学生の自主的な学習計画を予備登録対象科目の履修のために変更する必要がないように、予約制予備登録制度を現在の制度の上に作成します。

● 本制度導入による利点

学生は今までよりも満足度の高い学習ができると考えられます。それは個々人が計画した学習計画にて科目を履修できることが今までよりも容易になるためです。

また教務課も学生の満足度をより高めることができると考えられます。なぜならば、それぞれの学生が今後どの科目を履修したいか事前に知ることが出来ます。そのために、人気度の高い科目は2クラス開講するなどが可能となるためでもあります。

この方法では、従来の予備登録に一番影響をうけている学生つまり、計画を持つ学生を抽出し、条件付きで計画通りに履修できる効果が得られます。「予約制予備登録」は従来の予備登録方法と比べて、学生の勉強の意欲を条件として人数制限を行うという目的を達成することができます。且つ、明確な選抜基準をもちます。「予約制予備登録」では「計画を持っているかどうか」という基準で学生を判別します。その結果、計画をもっている学生の予約予備登録によって、優先順位を明確につけることができ、確実に問題改善の効果が得られます。

● 本制度導入によっても改善されない点

本制度を導入しても予備登録制度に内在する問題を根本的に改善することはできません。たとえば、履修制限の人数が40人の時、本制度の適用対象の学生が41人いた場合には、1人の計画を遂行させることができません。

しかしながら仮にこの科目を全体で50人の学生が履修希望していた場合、今までの制度であれば計画のない学生が選ばれ、10人の学習計画が変更になる可能性もあります。本制度を導入することにより、学習計画が変更になった学生が1人に減ったこととなります。この問題の解決を行うには、予備登録制度以外の方法にて過大クラスなどを防止する必要があります。

5-3 影響の予測

「予約制予備登録方法」の提案によって、学習計画をもっている学生の不満に対して、

現状の予備登録に改善効果をもたらすと考えられます。つまり、学習計画を重視するという優先基準を備えた提案は、計画を持っている学生の不満の解消に対して、効果的だと判断できます。また、予備登録により学習計画が妨げられることが減ることで、より一層勉学に励むことも予想されます。

しかし、計画を持っている学生を正確に判別する選抜方法の提案が難しいので、期待する結果を得られるかどうかの予測は困難です。更に、人気授業などの理由から予約人数が集中した場合は、再度抽選などの選考が必要となります。

また、計画を持っていない学生の予備登録の問題において、依然問題が残っています。例えば、学習計画を持っている学生が多数となると、少数派の学習計画を持っていない学生は、現行の予備登録ができる確率が減少してしまいます。最悪の場合、予備登録科目をひとつも履修できないことも考えられます。それでも、明確な選抜方法の導入によって、学生になぜ自分が落とされたのかを示すことができ、結果に対して納得してもらうことができるようになると予測はできます。よって計画を持っていない学生の不満の緩和にも効果が得られるのではないかと思います。ここで問題となるのは、単なる自己申告では計画性を本当に持っているのかどうかの保障は難しくなります。

その他の問題として、計画を持っていたとしても途中で変更をした学生、計画を当初から持っていない学生は過去に履修した科目によって次の履修科目に影響が出るために、途中から計画を変更するのにハードルが高くなることが考えられます。

6章 まとめ

本研究では、文教大学で履修登録する際に、履修制限のために行われている予備登録制度に対して、学生からの不満をきっかけに、本制度における問題点を挙げました。そして、現行予備登録の現状を分析し、学生の不満の原因を考察することによって、より明確な予備登録制度の必要性を検証しました。

次に、問題解決方法について、検討しました。そこで現状の諸問題を一挙に解決する困難性を分析することで、より効果的な解決案の導出法が得られました。この解決案では、予備登録に対して学生が不満をもたらす主問題を抽出したところ、「計画通りに履修できない」という結果が得られました。さらに、この問題でどのような学生が予備登録の影響を受けているのかについて、モデルを用いて検証したところ、計画を持っている学生が最も影響されているという結論が得られました。この最も影響を受けている学生を特定し、学習計画を持つ学生の不満を解決するためには、学習計画を重視するという観点が新たな予備登録方法には重要だという結論を導きました。

そして、これを実現する具体的な提案として「予約制予備登録方法」を挙げました。この方法は、明確な選抜プロセスで人数制限を行うシステムであり、学生の意欲が反映されるという特徴を持っています。計画を持っている学生を優先するということで、計画性がある学生の不満を解消する効果が得られます。また、計画を持っていない学生の不満に対して、予備登録の選抜から外れた理由が明確になるため、ある程度の満足が得られるのではないかと考えられます。

最後に、「予約制予備登録方法」の汎用性について、補足説明します。本提案は文教大学をモデルし考えられたものですが、本提案を適用できる前提条件は履修制限を行っていることのみです。すなわち、履修制限を行うすべての大学において、適用できるということ

です。

7章 今後の課題

「予約制予備登録方法」では「予約」が有効になるかの判断は、履修状況としました。これはあくまでも成績による優劣はつけないとのことです。なぜなら、計画を持って学習することと成績には関連は無いと考えたためです。ただ、これが適切かは明らかにしていません。そこで今後の一つの課題として、適切な「予約制予備登録方法」の基準作りが必要でしょう。

また、この研究においては、現在の予備登録を含めた履修登録制度本体には手を加えていません。すなわち、予備登録を行い、そのあとに履修登録をするというプロセス自体に変更を加えていません。これは、現行の履修登録制度を肯定や否定をしているわけではなく、現在の制度の下において変更を加えるとすれば、予備登録の部分に手を加えようとしたためです。よって、必ずしも予備登録の部分のみを見直す必要はありません。履修登録全体のプロセスを見直すことによって、計画を持っている学生を優先的に扱うことができるかもしれません。プロセスを見直すことによって、予備登録制度そのものを廃止することも可能かもしれません。

今後の課題としては、履修登録の細部の見直しを進めた上で、一部分を修正したつぎはぎだらけの履修登録制度ではなく、全体として統一感のある新たな履修登録制度を作る必要があると思われます。そのことにより、現在のような予備登録制度の廃止を含め、抜本的な履修登録制度の見直しを行うこともできると考えられます。

謝辞

本研究を完成させるにあたって、指導教員である根本俊男助教授には大変お世話になりました。卒業研究のテーマ選定から始まり、卒業論文発表会、本論文完成のすべてにおいて、根本先生のアドバイスと激励がなければ完成させることはできませんでした。そしてなにより、研究に対する意見を下さった3年生には非常に感謝しております。特に、研究にずっと付き合ってくれた斎藤大輔さん、深夜まで文章を直してくれた吉田惇さんには感謝の念が絶えません。本当にどうもありがとうございました。

参考文献

- [1]文教大学「2004(平成16)年度 履修の手引き」2004.
- [2]文教大学湘南校舎 教務課「2004(平成16)年度時間割表」2004.
- [3]文教大学学友会「平成16年度前期学友会アンケート」2004.
- [4]文教大学経営情報学科カリキュラム構成 履修指導用2004.
- [5]<http://www.sft.keio.ad.jp/>「SFC 慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス」web.
- [6]http://www.aoyama.ac.jp/agunews/vol_7/sirase_5.html 青山学院大学.
- [7]<http://cc.musabi.ac.jp/jimu/risyutouroku.html> 武蔵野美術大学.
- [8]九州大学学務部 学務情報システム推進室「学務情報システム・教務システム操作説明書 ~学生用~ (履修登録)2004.
- [9]<http://www.gk.ofc.kyushu-u.ac.jp/rishu/> 九州大学.

- [10]<http://www.h.chiba-u.ac.jp/kyomu/risyu.htm> 千葉大学.
- [11]<http://www.ccb.shukutoku.ac.jp/office/conts/reg.html> 淑徳大学.
- [12]<http://www.chs.nihon-u.ac.jp/german/inst/> 日本大学.
- [13]<http://www.tokuyama-u.ac.jp/> 徳山大学.
- [14]http://www.nara-su.ac.jp/~nishioka/comnet/2000/orient_risyuu.htm 奈良産業
大学.
- [15]立教大学 「履修手引き」 2004.
- [16]毎日コミュニケーションズ 「大学生の就職意識調査」 2004.